

藤枝市中心市街地活性化協議会 会議録

会議名	平成29年度第2回藤枝市中心市街地活性化協議会
日時	平成29年7月13日(木) 13:30~15:00
場所	藤枝商工会議所 4Fホール
出席者	<p>会 長 山田壽久</p> <p>委 員 松浦正秋、大塚博巳、栗田隆生、八木重樹、秋田弘武、内記秀夫、杉浦 衛、島村武慶、秋原恭大、北島多喜子、仲田和好、山本和子(代理)、栃本英雄、鈴木健夫、渡邊芳隆、高井賢一、鈴木寿幸、青島勝昭、長田雅紀(代理)、梅島純夫、小林浩樹、田口敏行、大石茂樹(代理)、</p> <p>委任状出席 江崎晴城、寺島雅之、佐野芳正、柳川利明</p> <p>オブザーバー 藤枝警察署 石川武男、渡邊崇彦 静岡県交通基盤部都市計画課 浦山直己</p> <p>藤枝市中心市街地活性化推進課 課長 増田政巳 係長 岡村敏明 係長 石橋徹也 山村浩二</p> <p>藤枝市商業観光課 課長 谷口昌教 係長 青嶋和徳</p> <p>藤枝商工会議所 事務局長 加藤久芳 課長 徳浪和浩 課長補佐 小野和紀 八木明日香</p>
内 容	<p>◆内 容</p> <p>(1) 次期中活計画策定のスケジュールについて</p> <p>(2) 藤枝市中心市街地の現況と課題について</p> <p>(3) 次期中活計画の概要・骨子(案)について</p> <p>◆情報交換</p>
会議の経過	<p>徳浪課長の司会により開会</p> <p>始めに、山田会長より挨拶があり、内容に入った。</p> <p>◆内 容</p> <p>(1) 次期中活計画策定のスケジュールについて</p> <p>中心市街地活性化推進課石橋係長より資料1に沿って説明。</p> <p>今回の会議では、第2期中活計画の課題、課題に対する次期計画策定の基本的方向性、基本方</p>

<p>会議の経過</p>	<p>針について意見をいただきたいとした上で、次期計画実施までのスケジュール、体制を説明した。</p> <p>説明終了後、山田会長より、意見・質問を求めたが特に出なかった。</p> <p>(2) 藤枝市中心市街地の現況と課題について</p> <p>中心市街地活性化推進課山村氏より資料2に沿って説明。</p> <p>これまでの中心市街地の取り組みを簡単に説明した後、第2期から次期に向けた課題、中心市街地が抱えている問題点を挙げた。また、調査をする中で出てきた「藤枝市を訪れたい」「藤枝市に住みたい」につなげるためのキーワードを提示した。</p> <p>中心市街地と藤枝地区の相互連携、従来からあるモノを活かすリノベーション、シェアサイクルを取り込んだコンパクトな都市づくり等が求められる。</p> <p>(3) 次期中活計画の概要・骨子(案)について</p> <p>中心市街地活性化推進課岡村係長より資料3に沿って説明。</p> <p>議題に入る前に内閣府とこれまで事前相談を行ってきたことを報告。</p> <p>認定制度の趣旨としては、衰退している中心市街地に対して政府が一体となって補助金や規制緩和などの支援をしていくというもの。本市の場合は、2期10年取り組んできて第1期計画ではすべて目標値を達成、第2期計画も達成が見込まれている。そんな中で、今後も取り組む必要があるのかと言われている。第3期計画の認定を受けた市が今年の3月までに全国で4市あるが、今年度第3期を目指しているところの計画内容は、第2期計画の課題の積み残しであるところが多く、それでは第3期の認定を受けるのは厳しいとのことである。つまり、「新しい課題」、「新しい目標」、「新しい目標指標」、「新しい事業」が必要とされている。藤枝市については、第2期計画までに主に駅南地区でハード事業が順調に進み、マンションなども増え、目標指標など定量的な部分では評価されているが、市民意識調査の結果などの定性的な部分については評価が非常に厳しい。今後、益々人口減少・高齢化が進む中で継続して中心市街地を活性化していく必要がある。第3期計画では、ソフト事業を中心に「質の高い暮らしと賑わいあふれるしずおか中部の生活・交流拠点」をテーマにまちづくりをすすめていきたい。</p> <p>基本的方向性</p> <p>①質の高い街なか居住の推進</p> <p>②回遊性とにぎわいの創出</p> <p>③他地区との交流ネットワークの強化</p> <p>方針1 付加価値の向上による、質の高い暮らしの実現</p> <p><目標1> 都市機能の集積による利便性の高いまち</p> <p><目標2> 出店しやすい環境づくりによる求心力の高いまち</p> <p>方針2 活動・交流の促進による、にぎわうまちの実現</p> <p><目標3> 昼間人口増加によるにぎわいを実感するまち</p>
--------------	---

<目標 4> 他地区との連携と公共交通などの利用促進による来訪意識を刺激するまち説明終了後、山田会長より、意見・質問を求めた。

<意見、質問>

・(株)まちづくり藤枝 栃本委員

①質の高い街なか居住の推進について、具体的にどう捉えていいのか？

②今までの第2期計画と今回の計画の特徴、違いは？

→岡村係長が回答

①質の高い街なか居住の推進とは、方針1の「質の高い暮らしの実現」を捉えている。具体的には、生活満足度や利便性の高い暮らしのことである。生活満足度の高い暮らしについては、魅力的な店舗が少ないという声から、「出店しやすい環境づくりによる求心力の高いまち」を掲げて、個性的で魅力ある商業・サービスなどの店舗の出店環境を創出し、リノベーションなどを活用しながら魅力的でおしゃれな店舗出店の後押しをしていく。利便性の高い暮らしについては、「都市機能の集積による利便性の高いまち」を掲げて、再開発事業を中心に、医療・高齢者施設等の必要な都市機能を集積し利便性の高いまちづくりを推進していく。

②質の高い暮らしの実現も特徴ではあるが、特に目標4の他地区との連携によるにぎわいや回遊の創出である。今まではエリア内の活性化の取り組みを展開してきたが、今回ははじめて地区外の取り組みと連携をし、両エリアにおけるにぎわいの相乗効果を期待している。中心市街地の効果を他地区に広めるとともに、他地区の効果も中心市街地に呼び込み、掛け算の発想でさらに中心市街地の活性化を図っていく。

・ 駅南地区活性化連絡会議座長 仲田委員

①藤枝市でも高齢化が進んでいるが、何年後に65%に達するのか。また、これから何年後に人口が減少していくのか。中心市街地活性化の見通しについてどう考えているか？

→増田課長が回答

現在高齢化率28%を超えている状況。その後の推計は手元にない。人口については今がピーク。推計数値では平成27年から減少の想定だったが、少し伸びている。今後間違いなく人口が減少していく。

→仲田委員

今後の見通しの分析は？

→増田課長が回答

中心市街地活性化計画の5年間の計画の中で、5年間の推計では、このまま何もしないと平成28年の数値が10,629人。平成34年には10,258人、▲371人と減っていくことに。そういった中で、施策で数値を上げていきたいと考えている。

→仲田委員

人口が減少していく中、今後対策が必要。計画の中で人口減少を前提とした視点は必要。社会環境の変化にあった計画を求める。

②中心市街地の中で、より適正な土地利用のために都市計画の見直しが重要ではないかと思

うがどうか。

→八木部長が回答

人口減少が進む中でまちづくりをどうしていくべきか、人口減少を止めようと頑張っているが将来的には減らざるをえない。人口が減っても暮らしの質が落ちないまちづくりを目指すための「立地適正化計画」という計画を現在策定している。コンパクトな暮らしの拠点を市内に何箇所か作り、市民の方が行き来しやすいようにする。都市の拠点、生活の拠点等の設定を行う中で、中心市街地は都市の拠点として都市機能の集約を目指す。

土地利用の見直しについては、現状と合ってきていない部分には見直しを検討しているところ。具体的な計画があれば色塗り（用途地域の変更）も変えていく。柔軟に対応していきたい。

◆情報交換

・静岡産業大学 田口委員

※静岡産業大学藤枝駅前キャンパスの外観図と見取り図を配布して説明。

BiVi 藤枝の1階、入口から入って右側部分、10月11日に開校予定で進めている。契約は平成29年10月1日～平成41年2月27日。隣にはカフェが入る予定。セミナールームもあり、色々な団体とコラボして使う予定。SBS学院とペッパーや車のロボットを使った小学生向けのプログラミング教育も考えている。国際ビジネス関係のセミナー、ICT・IoT関係のセミナー、一般教養のセミナーなど単発、シリーズ物で行ったり、シンポジウムなどを行ったりして活用していく。活動交流スペースについては、市民、企業の方向けの賑わいを高めるためのスペース。事務室は大学の事務室だけではなく、産学官連携推進センターができるので、産学官交流の拠点の役割を果たす。面積は755㎡。近くにABCクッキングが入り、産業大学と食メディアラボという共同活動も行っていく。次期中活計画においては、キャンパスの学生をまきこみ賑わい効果はもちろんのこと、ICT・IoTの拠点としても産学官一体となって価値創造を高めていきたい。

→山田会長

駅前キャンパスには何名ほどの学生が来るのか。

→田口委員

100名ほどは。

→秋田部長が補足

産学官連携交流センターの位置づけになっている。指定管理者として自主事業、指定事業の実施、ICTコンソーシアムの事務局も願う。また、駅南図書館はビジネス支援図書館の位置づけにあり、企業創業の相談支援を行っているエフドアが入っているが、このエフドアが事務室2に移ってくる。産業振興の拠点としてもエコノミックガーデニングのビジネス支援もこちらで進めていく。

・藤枝駅前一丁目8街区市街地再開発組合理事長 鈴木委員

一丁目8街区の進捗状況としては、昨年末から地区名称を募集、絞込みをして一般投票をし、

地区名称とロゴデザインが「FUJIEA mikine」に決定。今後再開発ビルのシンボルとして活用していく。商業施設棟の1階は商業施設、2階は医療施設となる。工事の進捗状況としては、マンションは16階を建設中。来年1月の竣工に向けて概ね順調に進んでいる。引き続き協力をお願いしたい。4月にグランドオープンの式典を考えている。そこからがスタートになると改めて実感しているところで、今後周辺の商店街や質の高い暮らしの街づくりに寄与していきたい。

・(株)まちづくり藤枝 栃本委員

駅周辺のにぎわいづくりを行っており、今年もイルミネーション事業を行う。今までは補助金を活用して行ってきたが、今後の懸念もあり、藤枝駅周辺イルミネーション協賛会という組織をつくった。山田会頭に会長をお願いし、8月くらいから協賛のお願いにまわる。

て～しゃばストリートについては毎年行ってきたが、今年は新たに駅北でも開催する。駅北の通りでサッポロビール協賛でビアフェスを計画中。駅南においても、駅南広場で音フェスという音楽イベント等色々と計画しており、駅周辺の賑わい創出を考えている。

→山田会長

藤枝駅周辺イルミネーション協賛会が発足。これから協賛のお願いをしたい。

・駅前商店街振興組合 北島委員

6街区については今年の総会で少し先が見えてきたように聞いた。8街区の影響が大きい。触発されて動いてきたと思うので、今後良い結果が報告できるといい。

・藤枝市商店街連合会 秋原委員

今回、中心市街地の課題が多く出てきたが、まさにその通り。それをどう対応していくかが大事。駅北地区の再生はこのままでは不可能。インパクトの大きな事業をするしかない。6街区の再開発を思いきってやめて文化センターに変えるか、そのくらいをやらないと厳しいのでは。駅北に出掛ける用事が無いと話に聞く。駅南もアピタが無くなって同じ状況。実際に商売をしていても人の流れが落ちていると実感。なんらかの手を打たないと駅北・駅南ともに厳しい状況。市民、商店街ともに頑張っていかななくてはならない。

・駅南地区活性化連絡会議座長 仲田委員

アピタが撤退し、マンションに住む人たちが買い物に困っている。生鮮食品が買えるところが早くできるよう求める。イルミネーションまでに何とかして欲しいと思っている。

・副市長 栗田委員

商店街の振興、中心市街地の振興は全国どこも苦戦している。その中でも藤枝市は頑張っている方だと思うが、気を緩めず、第3期に向けて進めていきたい。明日、八木部長と担当が内閣府に行って計画を詰めてくる。本日の意見も踏まえて早い段階で計画が進むようにしたい。

以上